

令和7年度

第3回上尾市不登校対策推進委員会 資料



令和8年2月24日(火)

上尾市教育委員会

目 次

資料 1

上尾市教育センター第2回「ほっとひと息ふれ合いカフェ～不登校について語り合ってみませんか」について・・・・・・・・・・ 1

資料 2

上尾市民間施設等連絡会について・・・・・・・・・・ 3

資料 3

SSR 及び SRT の効果的な活用について・・・・・・・・・・ 5

資料 4

民間団体活用に係る助成及び補助金についての先行自治体の対応状況について・・・ 6

資料 5

答申書（案）・・・・・・・・・・ 7

資料 6

答申書（案）別紙・・・・・・・・・・ 8

上尾市教育センター 第2回

「ほっとひと息ふれ合いカフェ～不登校について語り合ってみませんか～」

1 目 的

- (1) 不登校を経験した本人や保護者の話を聞き、当時の思いや現在の様子について知り、今後の見通しをもてるようにする。
- (2) 不登校児童生徒の保護者同士が語り合い、気持ちや情報を共有することで、今後の見通しや活力をもつことができるようにする。

2 日 時 令和7年11月19日(水) 10時00分から

3 場 所 上尾市教育センター プレイルーム

4 内 容

- (1) 所長挨拶
- (2) パネリストによる不登校の体験談「不登校当時を振り返る」 35分間
パネリスト：元教育センター利用者（高校3年生、父、母）
- (3) グループ交流「聞いてください、私の話」 60分間
- (4) アンケート入力（Google フォーム）

5 参加者 11名 ※1名子供と来所 別室オンライン対応

6 そ の 他



【パネリストによる不登校体験談】



【グループ交流】

7 参加者の感想及び成果・今後の方針

感想

- ・パネリスト親子の体験が良かった。
- ・体験談はわかりやすく、ご両親の思いも詳しく知ることができて大変参考になった。
- ・とても有意義な時間を過ごせた。



パネリストの体験談は、保護者と子供の両方からの視点で語られるため、参加者の満足度が高い。

感想

- ・グループの交流は、1時間という限られた時間の中で、色々話をしたので、中途半端な感じの終わり方で残念だった。



パネリストの体験談を実施する回では、グループ交流の時間は短くなるため、グループの人数を4人から3人にする。

感想

- ・事前の質問を組み込んでいただけたのでよかった。



効果的なグループ交流にするため、申込時の簡単なアンケートを継続し、意図的にグループ分けを実施する。

感想

- ・グループ交流では、皆さんのお話が聴けて、ワーカーさんからのアドバイスもいただけてよかった。
- ・今日得られた情報を役立てて、焦らず向き合っていこうと思う。

上尾市民間施設等連絡会について

- 1 目 的 不登校児童生徒を支援する民間施設等と学校、教育委員会間の連携を図り、
該当児童生徒及びその保護者等への支援を充実させる。
- 2 日 時 令和7年10月16日（水）15時00分から16時30分まで
- 3 場 所 上尾市青少年センター会議室2・3

4 参加者

- (1) 「上尾市 保護者情報提示リーフレット」に掲載している施設の代表者
ムーミンの会、ペンギンの部屋、N 中等部、フリースクールHIRO、
星槎学園中等部、第一学院中等部、トライ式高等学園、訪問看護ステーション
はるか、フリースクールスコレ・ムーンライト、フリースペースアトリエコルト
- (2) 上尾市立小・中学校長を代表する者
小・中学校校長会会長各1名
- (3) 上尾市立小・中学校教頭を代表する者
小・中学校教頭会代表各1名
- (4) 教育委員会事務局職員
教育センター所長、主幹、副主幹

5 内 容

- (1) 民間施設等と学校、教育委員会との相互理解・連携の促進に関すること
- (2) 民間施設間で相互理解・連携の促進に関すること
- (3) 民間施設等と本人・保護者への支援等に関すること
- (4) その他、教育委員会が必要と認めること

第1回議題 ①各施設について（コンセプト：具体的な学習・その他の活動）※10分程度
②連携等について方向性・依頼（学校・教育センターから）

第2回議題 ①教育委員会から情報提供（市内児童生徒の利用状況）
②グループ協議

「不登校児童生徒との効果的な関わり方と外部機関との連携の仕方」

6 感想・意見

- (1) 当日の感想
- ・話合いの柱があり、話合いを進めやすかった。
 - ・具体的な策につながりそうな話題があり有意義だった。
 - ・学校側にも、「SSR」や「SRT」のとらえ方が異なっていて、施設にも混乱を与えたり、実際に不登校児童が増えていたりするということがあることを聞き、学校としてもう少し統一感をもって不登校支援にあたれるようにしていく必要性を感じた。

じた。

- ・実際に困っていることを学校、フリースペースなど異なる立場で出し合えた点良かった。
- ・班別の情報交換は、とても有意義でした。
- ・それぞれの現場でのご苦労は推察できますが、実際の声でお聞きすることができて良かったです。
- ・現場の先生方にこそ、社会現象にもなっている不登校の子どもたちの実情を知ってほしいと痛感しました。
- ・初めてのグループ協議は、大変参考になりました。

(2) 次回以降の希望など

- ・学校とフリースクール、フリースペースの連携について。
- ・班別の情報共有を入れてほしい。
- ・民間施設に通う生徒の評価、評定について。

SSR 及び SRT の効果的な活用について

1 SSR 支援状況（4月～12月）

		4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
小学校	SSR	36	57	60	66	72	82	84	89			
	その他支援	54	62	84	63	118	127	134	107			
中学校	SSR	24	48	39	39	47	49	56	63			
	その他支援	14	13	38	13	21	20	17	15			
小・中合計	SSR	60	105	99	105	119	131	140	152			
	その他支援	68	75	122	76	139	147	151	122			
合計		128	180	221	181	258	278	291	274			

SSR での支援人数は増加傾向。

2 SSR とは

教室に入ることが難しい児童生徒や、少し気持ちを落ち着かせてリラックスしたいと思った児童生徒が、教室以外の居場所として過ごすことのできる部屋であり、各学校は、空き教室などを利用して設置している。

3 SRT とは

SSR を中心に、長期欠席や不登校傾向の児童生徒の学習及び学校生活における支援に従事している。

4 他自治体の SSR を効果的に活用するための事例

- ・コミュニケーション能力育成のための SST の実施
(ふわふわ言葉・ちくちく言葉・表情カード作成)
- ・1日の取組や自身の健康状況を知らせるノートの作成
- ・週予定や行事予定など掲示物の協働作成
- ・児童生徒の興味に合わせた環境整備（運動好きの児童のために道具を準備）

5 上尾市の SSR 活用の現状と課題

- ・SRT が担任と1日の予定を共有し、オンライン授業ができる環境を整備し学習に取り組んでいる。
- ・教室復帰を目指している児童生徒と SRT が1日の予定を相談しながら、参加できる授業に参加している。
- ・SRT が登校が難しい児童生徒の家庭訪問を実施している。
- ・週1日の勤務の為、児童生徒との人間関係構築に時間がかかる。
- ・支援策について教職員と連携し、情報共有する時間がない。
- ・他の学校の活用状況の情報が少ない。

民間団体活用に係る助成及び補助金についての先行自治体の対応状況について

1 目的

通うべき学校に行きたいけれど行けない状況にある児童生徒及び保護者を支援するための手立てとして、保護者への経済的負担の一部を補助金として支援することで、児童生徒の学ぶ機会を広げるため

2 申請方法について

複数の自治体の申請方法について比較すると、おおよそ次の3つの自治体による方法に分類できる。

(1) 東京都

- ・ 交付申請
- ・ 口座振替依頼書
- ・ フリースクールへの確認書
- ・ 通所状況等報告書及び別紙（四半期に1回）

- ・ 民間施設と学校が様式のやりとり等でつながることができる。
- ・ 申請書によるやりとりが複数回ある。

(2) さくら市

- ・ 交付申請書兼請求書

- ・ 自治体とのやりとりが1回のみである。

(3) 姫路市

- ・ 交付申請書
- ・ 実績報告書
- ・ 補助金交付請求書（半期に1回）

- ・ 実績報告が前期と後期の2回となっている。
- ・ 半期に1回の報告となっているが、学校を介して報告される様式ではない。

- ・ 保護者や民間施設による申請や報告の手続きの回数の違いが与える影響
- ・ 機械的な申請だけに終わらず、民間施設、保護者の連携を密にできるような申請のやりとりの必要性

答申書（案）

上尾市教育委員会
教育長 西倉 剛 様

令和8年3月 日
上尾市不登校対策推進委員会
委員長 小林 正幸

令和7年7月10日付け上教セ第435号にて上尾市教育委員会より提出された諮問について、令和7年7月から3回の協議会を開催し、下記のとおり意見をとりまとめましたので、答申します。

記

- 1 諮問内容
本市における不登校児童生徒に対する対策を総合的かつ効果的に推進するための、校内外の支援体制の充実、民間施設等との連携、保護者支援について
- 2 答申の内容等
別紙のとおり

1 諮問内容

本市における不登校児童生徒に対する対策を総合的かつ効果的に推進するための、校内外の支援体制の充実、民間施設等との連携、保護者支援について

2 協議内容

(1) 現状

- ア 不登校児童生徒が増加している。
- イ 不登校児童生徒の中でも様々な状況の児童生徒がいる。
- ウ 不登校児童生徒をもつ保護者は多くの悩みや不安を抱えている。

(2) 課題

- ア 不登校児童生徒の状況に応じた多様な支援が必要である。
- イ 公的機関以外の民間施設等に通う児童生徒への支援が必要である。
- ウ 保護者への支援が必要である。

(3) 課題解決のための視点

ア 児童生徒の状況に応じた居場所づくりや支援の充実

SSRにおける支援の充実に向け、人員の配置や、校内の教職員への理解、SRTの資質向上につながる研修会の実施、保護者に対するSSRの周知が必要である。

また、学校適応指導教室かもめ・けやき教室や分室についての保護者への情報発信や教職員の理解を促進し、児童生徒の状況に応じた居場所への接続を適切に実施する必要がある。

イ 民間施設等へ通う児童生徒への支援の充実

学校や教育委員会が民間施設等と直接話す場を設けるなどして、互いに理解を深める必要がある。教育センターの民間施設等訪問を継続するとともに、連絡会を実施しながら、学校と民間施設等との連携の在り方について協議したり、お互いに情報共有したりすることで連携を深める必要がある。また、保護者に対しても必要な情報を周知したり、助言したりするなどの支援が必要がある。

民間施設等を利用する児童生徒の保護者への経済的支援については、通うべき学校に行きたくとも行けない状況にあることをふまえた適切な支援内容等について、引き続き調査・検討をする必要がある。

ウ 保護者向けの不登校について語り合う会の開催

保護者の悩みを話したいという思いにこたえ、1年に複数回開催する必要がある。取組内容としては、保護者同士が語り合うだけでなく不登校を経験した方の体験談を取り入れることを継続するとよい。話し合う際は、グループの人数等を工夫し、保護者が満足できるような会にしていく必要がある。

以上の調査審議結果を踏まえ、以下のとおり提言する。

- ①校内外の支援体制の充実には、教職員の研修による多様な支援の在り方に関する理解促進とともに、保護者への相談窓口や不登校支援に関する情報の幅広い周知が求められる。現在実施している研修や不登校支援に関する情報発信について、最新の情報を加えながら効果的かつ継続的に実施できるようにする。
- ②民間施設等との連携のために、教育センター訪問や民間施設等連絡会を継続し、学校・民間施設等・教育委員会が互いに理解を深める機会を積極的に作り、その情報を共有できるようにする。
また、民間施設等を利用する児童生徒の保護者への経済的支援については、支援対象の設定など課題の克服について継続して調査・検討を進めていく。
- ③保護者への支援については、相談窓口の周知や情報提供にとどまらず、悩みを自由に話し交流できることができる場を設定する。現在実施している保護者向けの語り合う会の持続可能な実施をすすめ、保護者支援の充実を図ることができるようにする。